

令和7年度 大阪ふれあいおりがみ等使用実態調査まとめ

1. 調査期間

令和8年2月2日から令和 8 年3月 24 日まで

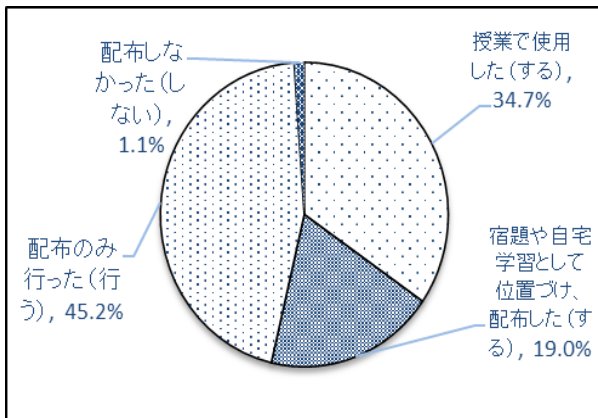
2. 各設問の結果まとめ

有効回答件数 352 校(回答率:約 34.2%)

※調査票配布先:府内小学校 1,030 校(国・公・私立及び支援学校(小学部))

- 大阪ふれあいおりがみの使用割合は 98.9%(令和6年度 99%)
- 大阪ふれあいすごろくの使用割合は 97.2%(令和6年度 94%)

Q1 大阪ふれあいおりがみを使用されましたか(使用される予定ですか)

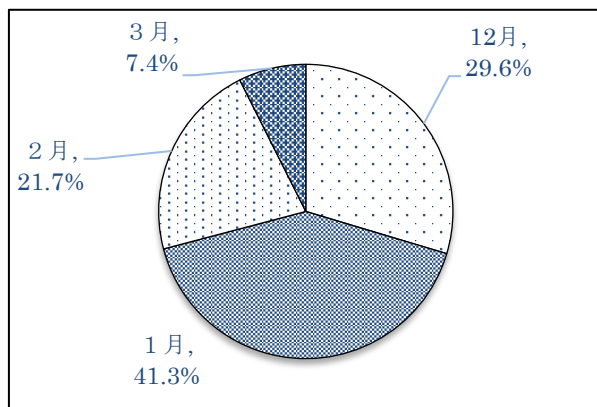


① 授業等で使った(する)	122 件	34.7%
② 宿題や自宅学習として位置づけ、配布した(する)	67 件	19.0%
③ 配布のみ行った(行う)	159 件	45.2%
④ 配布しなかった(しない)	4 件	1.1%

使用割合は配布のみも含め、9 割以上となっており、多くの生徒に届いていると考えられる。

Q2 大阪ふれあいおりがみの使用時期(予定含む)を教えてください。

Q1 で「授業で使った(する)」または「宿題や自宅学習として位置づけ、配布した(する)」を選択した場合のみ(回答件数:189 件)

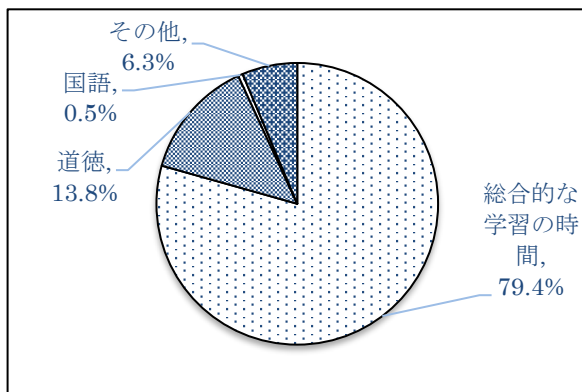


① 12 月	56 件	29.6%
② 1 月	78 件	41.3%
③ 2 月	41 件	21.7%
④ 3 月	14 件	7.4%

「1 月に使った」との回答が最も多く、全体の 4 割以上であった。

Q3 大阪ふれあいおりがみは、何の教科で使用されましたか(されますか)。

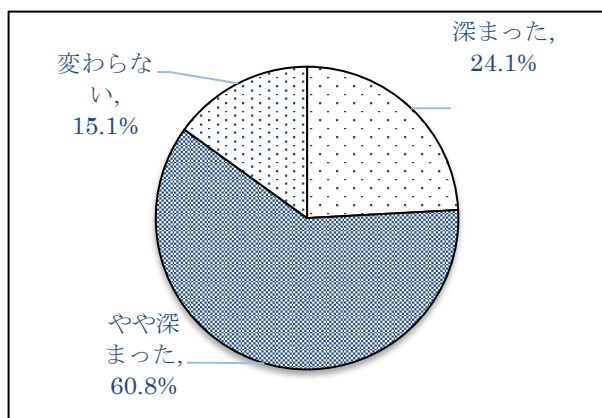
Q1 で「授業で使用した(する)」または「宿題や自宅学習として位置づけ、配布した(する)」を選択した場合のみ (回答件数:189 件)



① 総合的な学習の時間	150 件	79.4%
② 道徳	26 件	13.8%
③ 国語	1 件	0.5%
④ その他	12 件	6.3%

昨年度と同様に「総合的な学習時間に使用した(する)」との回答が最も多く、その次に「道徳」が多かった。「その他」としては、「児童の交流等の時間」、「図工」、「特別活動」等の回答であった。

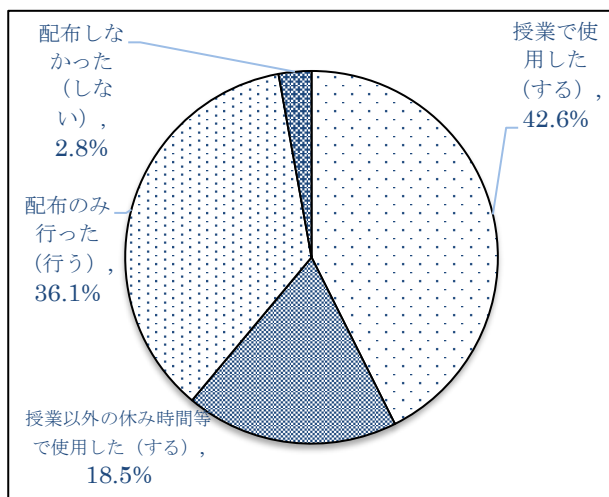
Q4 生徒が大阪ふれあいおりがみを通して障がいに関する理解が深まったと思いますか。



① 深まった	85 件	24.1%
② やや深まった	214 件	60.8%
③ 変わらない	53 件	15.1%

「深まった」「やや深まった」という回答が 8 割以上であり、障がいに対する理解度は向上したと考えられる。

Q5 大阪ふれあいすごろくを使用されましたか。

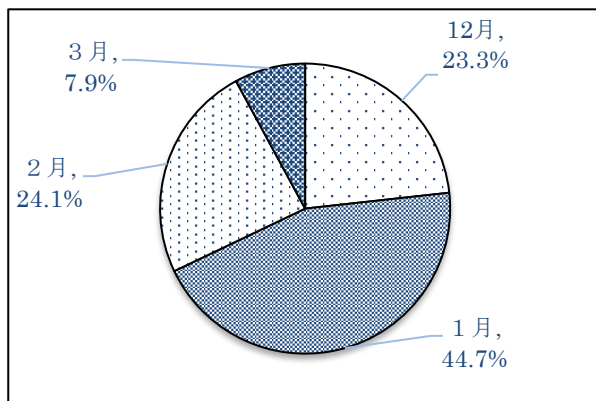


① 授業で使った(する)	150 件	42.6%
② 授業以外の休み時間等で使った(する)	65 件	18.5%
③ 配布のみ行った(行う)	127 件	36.1%
④ 配布しなかった(しない)	10 件	2.8%

使用割合は配布のみも含まれるが、9 割以上であり、多くの生徒に届いていると考えられる。(令和 6 年度:94%)

Q6 大阪ふれあいすごろくの使用の時期(予定含む)を教えてください。

Q5 で「授業で使⽤した(する)」または「授業以外の休み時間等で使⽤した(する)」を
 選択した場合のみ(回答件数:215 件)

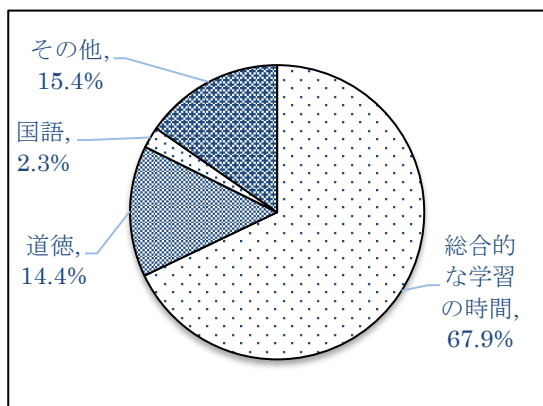


① 12月	50 件	23.3%
② 1月	96 件	44.7%
③ 2月	52 件	24.1%
④ 3月	17 件	7.9%

おりがみと同様に、「1 月に使⽤した」との回答が最も多く、全体の 4 割以上であった。

Q7 大阪ふれあいすごろくは、何の教科で使⽤されましたか(されますか)。

Q5 で「授業で使⽤した(する)」または「授業以外の休み時間等で使⽤した(する)」を
 選択した場合のみ(回答件数:215 件)

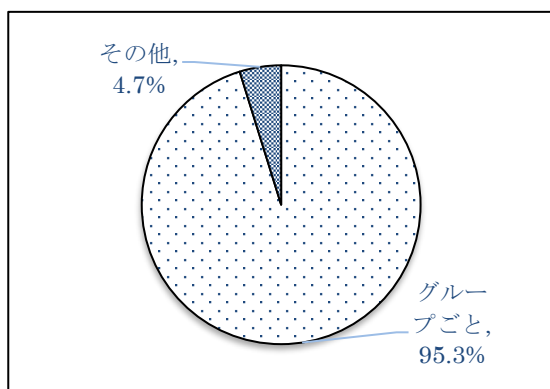


① 総合的な学習の時間	146 件	67.9%
② 道徳	31 件	14.4%
③ 国語	5 件	2.3%
④ その他	33 件	15.4%

・おりがみと同様に「総合的な学習の時間で使⽤した」との回答が 6 割以上で最も多かった。
 ・「その他」の回答としては、「特別活動」、「学級活動」等であった。

Q8 大阪ふれあいすごろくは、どのように使⽤されましたか(されますか)。

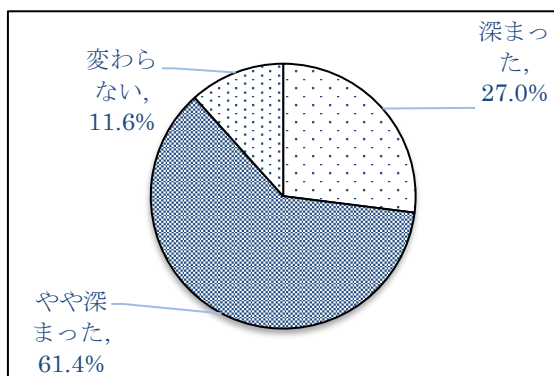
Q5 で「授業で使⽤した(する)」または「授業以外の休み時間等で使⽤した(する)」を
 選択した場合のみ(回答件数:215 件)



① グループごと	205 件	95.3%
② その他	10 件	4.7%

「グループごとに使⽤した」との回答が 9 割以上で最も多く、「その他」では、「自由に友だちどうしで使⽤した」との回答があった。

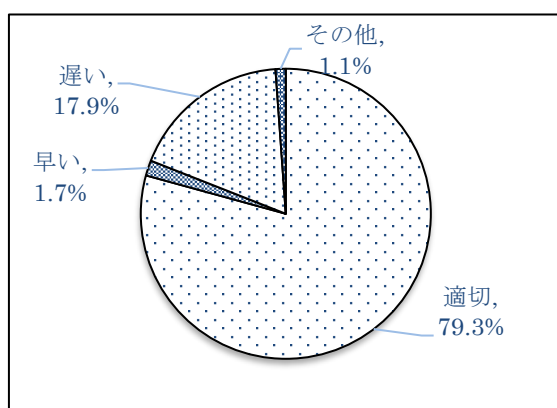
Q9 生徒が大阪ふれあいすごろくを通して障がいに関する理解が深まったと思いますか。



① 深まった	95 件	27.0%
② やや深まった	216 件	61.4%
③ 変わらない	41 件	11.6%

「深まった」と「やや深まった」との回答を合わせて9割近くであり、障がいに対する理解度は向上したと考えられる。

Q10 大阪ふれあいおりがみ・すごろくの配布時期について

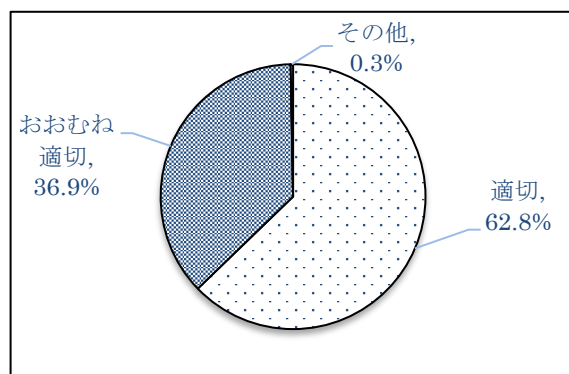


① 適切	279 件	79.3%
② 早い	6 件	1.7%
③ 遅い	63 件	17.9%
④ その他	4 件	1.1%

「適切」との回答が8割近くであった。

また、「その他」として、「道德で、障がい者理解についての单元がある。また、人権の取り組みで、深く扱うには、折り紙やすごろくなので、軽い。そのまま配るには、保護者も、困ると思い、授業で扱う予定。扱いが難しく、正直毎年送られても困る」との厳しい意見があった。

Q11 大阪ふれあいおりがみ・すごろくの掲載内容について



① 適切	221 件	62.8%
② おおむね適切	130 件	36.9%
③ 不適切	0 件	0%
④ その他	1 件	0.3%

概ね、「適切」と「おおむね適切」との回答であった。

また、「その他」として、「道德で、障がい者理解についての单元がある。また、人権の取り組みで、深く扱うには、折り紙やすごろくなので、軽い。そのまま配るには、保護者も、困ると思い、授業で扱う予定。扱いが難しく、正直毎年送られても困る」との厳しい意見があった。

Q12 大阪ふれあいおりがみ・すごろくについて、良かった点、改善すべき点等がありましたら記入してください。(自由記載)

【良かった点(肯定的な意見)】

- ・子どもたちには、最初何も言わずにすごろくを配り、させた。反応をうかがったところ、子どもたちなりに障がいについて学習してきたことを活かして、「こうしたらいいんちゃう？」「ここはもっと考えないと」など、いろんな意見を出し合いながら復習する、いいきっかけになったように感じる。
- ・子どもたちが楽しく、分かりやすく学習することができた。ありがとうございました。
- ・グループでおりがみやすごろくを楽しみながら、障がいのことを学べてとてもよかった。今まで学習したと結びつけながら、「新しいことも知れてよかった」と子どもたちも感想を述べていた。
- ・おりがみやすごろくといった、子どもたちに馴染みのある遊びから障がいについて学べることは大変意義のあることだと感じた。イラストも親しみがあり、子どもたちにも好評だった。
- ・手話体験や国語科の「いろいろな伝え方」の単元と横断的に学習ができたのが良かった。
- ・おりがみやすごろくといった児童の好きな活動を通して、障がいについての関心や理解が深まった。
- ・児童がすごろくやおりがみを通して、障がいについて学べるのがよかった。
- ・児童の意欲づけや、その後の福祉の学習への導入として非常に有用だった。
- ・スライドが分かりやすかったので、授業が進めやすかった。おりがみやすごろくは、学んだことの振り返りや復習に使った。
- ・おりがみを行う前のパワーポイントでの説明はとてもよく聞いて、内容に関心を持っていた。しょうがいへの理解が深まったように思う。
- ・スライドショーもあったので、子どもたちにも、わかりやすく伝えることができた。また、ヘルプマークを実際につけている児童もいてるので、仲間への理解も深まった。
- ・声をかける大切さや助け合う大切さを理解していた児童が多くいた。
- ・楽しみながら、学ぶことができました。本校では「やさしさ調べ(バリアフリーやユニバーサルデザイン等)」についても年間を通して学習をしてきたので、併せて活用することによって学びが深まった。
- ・特に、すごろくについては、とても役立った。意見を言う場面もあって、自分ごととして考えられた。
- ・大阪すごろくは、楽しみながら自分たちのすべきことを考えることができた様子であった。
- ・ピクトグラムだけではなく、点字ブロックや標識など、障がいを理解する気持ちを育むことができた。
- ・すごろく・おりがみなので、自然と子どもたちが興味をもっていた。
- ・ふれあいおりがみについて折り方が分かりやすく、全員できました。書かれている内容も読みながらすめられた。
- ・特にすごろくについては、とても意欲的に楽しく学ぶことができた。
- ・子ども達が遊びを通して学べるのがよかった。
- ・障がい理解をテーマに学んでいたのも、子どもたちはすごろくを楽しんでいた。よい教材だと思った。総合的学習の時間で、障がい理解をテーマにしている学年が取り組むので、一番よいと感じた。
- ・授業用スライドで学習してから、おりがみやすごろくに取り組みました。「なんとなく」知っている程度でしたが、様々な人がいることに気づき、マークを付けている人がいたら、助けたいという思いをもったり、見た目では分からない人もいるんだということに気づいたりすることができた。
- ・ただのすごろくではなく、障がい理解が深まるクイズがついているのがよかった。
- ・障がいについて考える機会ができ、福祉学習や人権教育につながったと思う。
- ・毎年ありがとうございます。今後も活用させていただく。

- ・障がいに関して、児童と一緒に考える場面をもつことができた。
- ・すごろくだったので、ゲーム感覚で子どもたちは楽しんでいた。
- ・ふれあいおりがみで障がいのことが幅広く(発達障がいについても触れていた)掲載されていたので、よかった。
- ・すごろくという親しみやすく楽しめる内容は取り組みやすい。
- ・障がい理解について、総合で学習していたので、学びにつながりよかった。
- ・ちょうど、3年生で道徳や国語、総合的な学習の時間に障がい者理解の学習をしていたので、配布するときにも話や声掛けがしやすかった。
- ・1月にアイマスク体験を行い、視覚障がいだけでなく、様々なことに困っている人に視点をあてて、個々に誰にどのようなことをサポートしたいかを考えてまとめる学習をしていたので、学習の振り返りやまとめとしても活用でき、大変よかった。
- ・楽しみながら取り組める内容がよかった。さらに、導入用などのスライドもありがたかった。

【改善すべき点(否定的な意見)】

- ・配付いただく時期をもう少し早めていただけると、取り組みやすかったように感じた。
- ・道徳の授業で関係する教材の時に活用しない限り、学校内での時間の確保は難しい。すごろくは、各クラス分ないので活用しにくかった。
- ・もう少し情報を少なくシンプルにしてほしい。アプリ等で学べるようにしてはどうか。
- ・本校の3年生にとってはおりがみは非常に難しかったようで、おりがみを活用してしょうがいへの理解を深めるというよりは、おりがみを完成させることが目的になってしまい、もったいなかったように感じた。
- ・学年のクラス数に対して、すごろくの枚数が少なく、少し使いにくかった。(各クラス3枚ほどになるため)
- ・大阪ふれあいおりがみは、児童にとって難しい様子だった。
- ・紙物を配って、現場に丸投げでなく、出前授業など具体の方がよい。
- ・もう少し早くいただけると、計画的に活用できると思う。
- ・配布学年の人数分の枚数をいただきたい。
- ・おりがみも使用しようと思ったが、時間の関係上すごろくしかできなかったもので、おりがみは配布して終わった。
- ・すごろくの台紙の枚数も児童分あれば、もっと休み時間に活用できたり、家庭でも家族で一緒にできたりするといつも感じている。カラーでなくてもよいので、児童数いただければと助かる。
- ・毎年、12月3日から9日までの障がい者週間に向けて、11月には学校に届いている。今回は業者のミスだと聞いているが、障がい者週間が終わってから届いたので、「今年度から、障がい者週間がなくなったのかな?」や「大阪ふれあいキャンペーンの事業はなくなったのかな?」と思っていた。来年度は、こういうことがないようにしてもらいたい。
- ・おりがみが2つ折りにされて届くので、紙が丸まってしまっていて使いにくい。
- ・カラーで遊び心満載で楽しいが、なかなかこれだけを行う時間がない。
- ・該当学年児童が在籍していないため、配布等していない。
- ・おりがみ、人数分はなかったので選んで渡す形になった。



大阪ふれあいキャンペーン